



平成 26 年度 一般国道 246 号建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

かみかすや

いしくらなかいせき

上粕屋・石倉中遺跡 現場見学会

主催：公益財団法人かながわ考古学財団
共催：伊勢原市教育委員会



地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業

江戸時代 大山道の発見



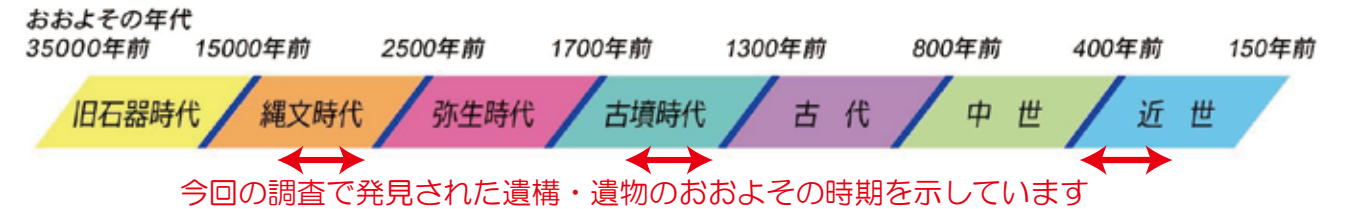
大山道

大山は別名雨降山（あふりやま）と呼ばれ、雨乞いに霊験ある山として信仰を集め、とくに江戸時代以降は農民を始めとする多くの人びとが大山を訪れました。その参詣者が行き交った道が、大山道と呼ばれます。

上粕屋・石倉中遺跡で見つかった上幅 8 ～ 10m、下幅約 4mの大きな道路跡も、その規模と幾重にも踏み締められた状況から、大山道の一部であったと考えられます。1960 年

代の航空写真（上図右下）を見ると、調査区で発見された道の延長線上に、道らしき影を確認することができます。現在の大山へのルート、県道 611 号とは位置が異なりますが、過去にここを通る道があったと推測されます。

昨年度発見された部分では 17 世紀（江戸時代前半）の短期間のみの使用で廃絶したと考えましたが、今回の調査で発見された南半分は、18 世紀以降も継続して使用されていたことがわかりました。



上粕屋・石倉中遺跡の発掘調査

伊勢原市上粕屋に所在する石倉中遺跡では、一般国道 246 号（厚木秦野道路）建設にともなう発掘調査で、江戸時代から旧石器時代にいたる時代の遺構・遺物が発見されました。

今回ご覧いただく調査区では、近世時期の遺構に、大規模な道路跡や溝、掘立柱建物跡、があり、陶磁器などの遺物が出土しています。古墳時代の遺構では、古墳 3 基の周溝跡がみつかりました。

また現在、縄文時代の遺構調査を進めているところです。昨年度の調査では、縄文時代早期の陥穴（おとしあな）や集石遺構、後期前葉の敷石住居跡や屋外埋甕などが、多量の土器とともに発見されており、今年度の調査でも縄文時代の遺構が見つかることが予想されます。

これまでの主な発見遺構と出土遺物

—発見遺構—

近世：道路跡、溝、掘立柱建物跡、
竪穴状遺構など
古墳時代：古墳の周溝など
縄文時代：敷石住居跡、集石、陥穴など

—出土遺物—

中・近世：陶磁器など
縄文時代：縄文土器、石器など

一般国道 246 号建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

上粕屋・石倉中遺跡 （伊勢原市 No.40）

2014 年 7 月 19 日

公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 神奈川県横浜市中区中村町 3-191-1
TEL: 045-252-8689 <http://kaf.or.jp>



近世の遺構・遺物

今回の調査では昨年度見つかった3号道状遺構の南側の続きが見つかりました。

そのほか、掘立柱建物跡や溝、土坑など、江戸時代の人びとがこの辺りの土地を利用していた様子をうかがうことができる遺構が発見されています。



1号掘立柱建物跡の柱穴
柱穴を真横から見たところ。柱穴の底に、根石が置かれていました。



150号土坑
長さ2.4m、幅0.8～0.4mで、墓の可能性が考えられます。

江戸時代の大山道（3号道状遺構）

道は幅8～10m、深さ1～2mの溝状の掘り込みの上に、踏み固められた面が重層的に検出されています。上層では両側に石列や、道沿いの建物への通じるとされる斜路が作られている様子がみられました。

昨年度おこなった道の北半部の調査では、江戸時代前半の17世紀に使われて埋まった後、宝永年間に噴火した富士山の火山灰が積もっていたことから、この道は18世紀初頭には使われなくなったと考えていました。しかし南半部の調査で、部分によっては18世紀以降も使用されていたことがわかりました。



道上層で検出された石列（南から）
両側に人頭大から80cm程度の石が並べられていました。



道沿いの建物への斜路
道沿いの溝の一部を埋め立てて、斜路が作られていました。両脇に石を配しています。



完掘状況（南から）
掘り込んで道の基盤が作られています。



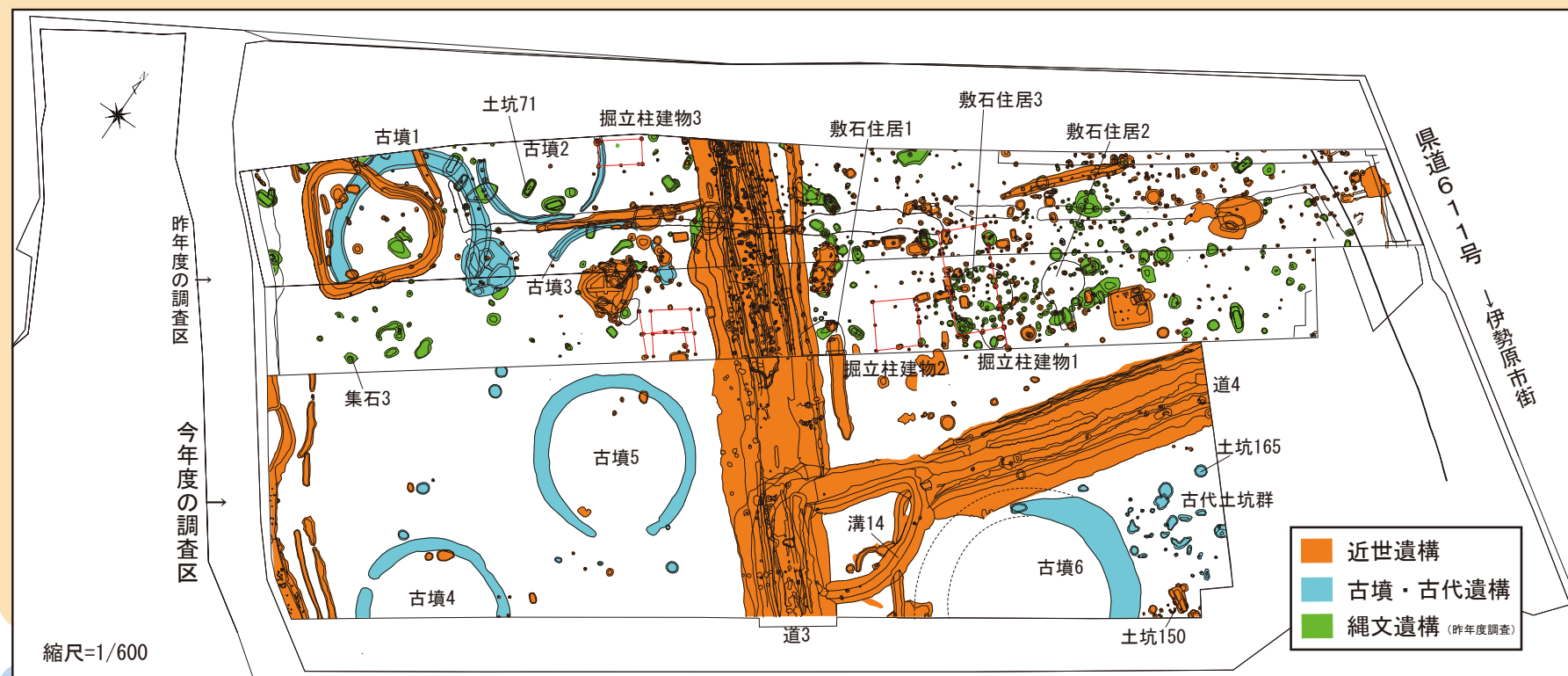
道の底部で検出された波板状凹凸
道を作る際の基盤工事の痕跡です。



完掘状況（北から）
掘り込みは深いところで2mもあります。



近世陶磁器の出土状況



古墳時代・古代の遺構

鈴川の両岸では古墳時代後期の古墳群が確認されており、ここでもその一部をなす円墳が見つかりました。上部にあったはずの墳丘や石室は残念ながら残っていませんでしたが、墳丘の周りをめぐる溝が検出されました。

また、調査区東端で古代の土坑群が見つかりました。



5号古墳



古代の土坑群



古代の円形土坑(165号土坑)

縄文時代の遺構

※昨年度調査

縄文時代早期の遺構として、陥穴（おとしあな）や、調理の跡とされる集石遺構がありました。後期の遺構では敷石住居跡などが見つかりました。また後期前半（堀之内1式）を中心とする大量の縄文土器が出土しました。



71号土坑(陥穴)



3号集石



大量の縄文土器(縄文時代包含層)



3号敷石住居(敷石の状況)



3号敷石住居(敷石下面の柱穴)



3号敷石住居内出土土器